

宅配現場におじゃまします!

中山間地の集会所を 宅配拠点にして 商品を届ける

生協ひろしまでは、2023年6月から神石高原町 古川集会所を拠点とした宅配を始めた。毎週木曜日、週に一度この集会所に住民が集まる機会を利用して商品を届ける。宅配の拠点となる集会所はスーパーも個人商店もない地域にあるが、「買い物支援」ではなく「もう一つの買い物手段」として生協の利用をすすめている。

生協ひろしま



生協ひろしま 組織本部
総合企画部 地域連携グループ
担当課長 川淵賢治さん

「古川集会所の近くには神石協働画部 地域連携グループ担当課長の川淵賢治さんはこう話す。

生協ひろしま 組織本部 総合企画部 地域連携グループ担当課長 川淵賢治さん

広島県の神石高原町は中山間地に位置し、住民の高齢化が進んでいる。町内にはスーパーがなく、道の駅に併設されたコンビニエンスストアが1店と、個人商店がある程度だ。同町内で約50世帯が暮らす古川地区には個人商店もなく、買い物は車で30分ほどの庄原市まで行く必要があるという。

古川地区へは加茂支所から車で片道1時間半くらいかかる。そのため宅配拠点の設置は配送の効率化にもつながると、同支所支所長の三原靖広さんは話す。

「神石高原町の全3、783世帯のうち1、347世帯が組合員です。古川地区では18世帯の組合員にお届けしています。古川地区は住民が集落に点在しており、地域内の移動にも時間がかかるため、効率やコスト面でも宅配拠点がで

地域住民が集まる集会所を 中山間地の宅配拠点に活用

生協ひろしまDATA

(2024年3月末現在)

組合員数：399,041人
職員数：総合職：567人 専任職：335人 パートナー*：513人
支所数：16支所、1センター
店舗数：7店舗
23年度供給高：480億372万円

* 時間による労働契約を結ぶ職員。



生協ひろしま 加茂支所
支所長 三原靖広さん

支援センターがあります。そのセンター長が、地域住民の状況をととてもよく把握され、生協の利用をすすめてくれました。そのおかげで6人が新規組合員となり、宅配を利用していきます」

集会所では毎週木曜の午前中に、地域に住む70代から90代の10人前後が集まり、「いきいき百歳体操」などを楽しんでいる。宅配の商品は体操後のお茶タイムに合わせて、生協ひろしまの加茂支所(福山市)から届けられる。

きたことのメリットは大きいです」

将来を見据え、もう一つの買い物手段として利用促進

集会所に宅配の拠点が設置されたことを機に加入した組合員には、生協を利用するのが初めてという人もいれば、職場で共同購入をしていた人もいます。組合員の1人は「これまでは車でスーパーへ買い物に行っていました。ここなら重い物でも届けてくれて、そのまま車に積み込めば良いので買物が楽になりました」と話してくれました。

地域に商店のない古川地区だが、住民に話を聞くと『買い物には特に困っていない』という人が多いそうだ。現状は、町外に仕事に行く近所の人に買い物を頼んだりして、買い物ができるためだ。住民の「困っている」の感覚の違いを配慮し、「買い物支援」ではなく「もう一つの買い物手段」として利用をすすめた川淵担当課長は話す。

「買い物に出掛けることができなくなったとき、生協の宅配を利用しようと思っても、カタログを見て注文することに慣れていない高



神石高原町の古川集会所と集会所を利用する組合員。



集会所に集まり行う「いきいき百歳体操」。



体操後、みんなでお茶を飲みながらのおしゃべりタイム。



集会所に届いた商品を組合員が自ら受け取る。

集会所を利用した宅配をスタートさせたきっかけは、生協ひろしまが2020年5月から竹原市で公共施設を宅配拠点にして行っている買い物支援だ。竹原市モデルと呼ばれ、市内3カ所の地域交流センターに商品を届け、組合員が指定時間内に受け取りに来る。住民が商品を受け取りに来ることで職員が住民の安否確認をすることができ見守りにつながったと、行

中山間地に高齢者の見守り 買い物支援の輪を広げる

年齢者には難しいでしょう。集会所を利用してはいる新規組合員6人のうち最高齢の方は90歳ですが、組合員同士で注文の仕方を教え合いながら利用しています。生協の便利さを知ってもらえれば、外出が困難になったときでも個配に切り替えて継続することができそうです」

政からも評価された。

生協ひろしまは広島県内全23の市町と包括連携協定を結び、竹原市モデルを提案している。神石高原町もその一つだ。竹原市モデルでは、5人以上の利用があれば配送手数料は無料となる。

「協定には高齢者の支援、買い物支援といった項目を設けていますので、この仕組みを他の市町にも広げていくことが目標です。住民同士で情報交換をしたり、声を掛け合って商品を取りに来たりすれば、生協を利用しながら共に助け合うことができます。生活物質の宅配や見守りに加え、古川集会所

のような集まりやお祭りなどを支援拠点として考えています。行政と連携しながら、それぞれの地域の課題解決に生協の資源を投入して地域を支えて盛り上げていきたいです」（川測担当課長）

広島県は平地が少ないため山間に暮らす人が多く、さらにどの市町でも高齢化が進み、買い物支援は課題となっている。人員不足や車両不足に悩む中、中山間地の宅配拠点ができることは配達効率化にもなる。行政と生協、それぞれにメリットのある取り組みとして、生協ひろしまではこれからも宅配拠点を広げていく。

「生協を利用する」という買い物の手段が 生まれたことが大きな成果です

神石協働支援センター
(広島県神石郡神石高原町)
センター長
みつしいしんいち
三石伸一さん



集会所を使った買い物支援は、毎週行われていた「いきいき百歳体操」の場を生協の宅配拠点としたもので、地域の世話人さんの協力があり実現しました。最初はパンや牛乳だけで「あとは原産で買うからいい」と言っていた人が、回数を重ねるうちに利用する商品が増え、遠方まで買い物に行かなくなったという声も聞きます。高齢になって買い物が困難になったときに、生協を利用するという買い物の手段の一つ持ったことが大きな成果だと思います。

また商品の受け渡しの際に、配送担当の方とおしゃべりをするのも楽しいようです。家に引きこもりがちな高齢者にとっては良い時間になっていると思います。